

はじめに

平成27年2月に、高杉春代氏との共著『ともに歩む認知症医療とケア』（現代書林）を発売しました。この著書は大きな反響をいただき、認知症診療に取り組む医師や介護スタッフ、認知症のご家族等の皆さんから歓迎していただきました。

たとえば、「5回読んだ、研修医にも勧めている」（老健施設担当の精神科医）、「2回読んで、もの忘れ外来を始めた」（消化器医のクリニック院長）、「研修医の指導に使いたい」（大学研修指導医）、「スタッフの勉強に30冊購入」（認知症グループホーム開設者）、「家族として参考になる」等、高い評価を各方面からいただきました。

また、日本医師会ニュース、認知症ねっと、読売新聞、千葉大同窓会報、月刊保団連、民医連医療、商工新聞などの紙誌で、推薦の書評やご紹介を頂戴致しました。いくつか抜粋させていただきます。

「町医者こそが、日本の認知症問題を解決する鍵を握っていると言っても過言ではない」、「認知症の医療とケアの目標をしっかりと見据えた活動は、日本の認知症の医療とケアのあり方に

大きな示唆を与えてくれます」（認知症介護研究・研修東京センター前センター長・本間昭先生）。

「本書のような書籍の登場を心待ちにしていた。（中略）政府主導の施策への対案として『トリアングル支援』主導の活動がある」（月刊保団連・宇都宮健弘出版部長）。

「認知症ケアに取り組んできた先進的活動を紹介」（千葉大学医学部同窓会報・近藤克則教授）。さらに拙著を読まれた各方面からの講演・報告依頼など10数か所でお受けし、共著者の高杉氏は30か所以上で講演・報告を行い、ご好評をいただきました。その中で、私に対しては医師やスタッフの方々から、「もの忘れ外来をどう開くのか？ 相談員は？」などの質問が寄せられました。高杉氏には、自立生活支援・トリアングル支援の展開、相談員についての質問などが出されました。

そこで、より詳しく実践的に知りたいと希望される医療関係の方、そして深い関心をお持ちの介護関係・ご家族等の方々のためにも、「続編」として、「もの忘れ外来」の開き方・続け方・利用の仕方をメインに、本書をまとめました。

本書が少しでも多くの読者の目に触れ、私たちの経験と提言が全国的にも広がっていくことを願ってやみません。

大場 敏明

略語

*HDS-R || 長谷川式簡易認知評価スケール

*MRI-Zスコア || MRI・VSRAD・Zスコア

*AD || アルツハイマー型認知症

*FTD || 前頭側頭型認知症

*BPSD || Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia || 行動・心理症状

*ケアマネ || ケアマネージャー || 介護支援専門員

定義

かかりつけ医（一般医、総合（診療）医、家庭医、GP、と類似語あり。本書では同義として使用。大場としては「町医者」が個人的には好きで併用、これも同義語と考えています）